

金色の実

～ 譲治と〈よりそう心〉～



文学創造都市
おかやま

目次

坪田讓治 紹介	3
三人の子どもがよせた讓治への声援	4
坪田讓治のことば	5
童話「ケイちゃんとかきのたね」	7
童話「レワの実」	8
岡山のくだものとへよりそう心	9
作家たちのへよりそう心	11
讓治と小川未明とのきずな	12
讓治が宮沢賢治へよせたおもい	13
岡山でうまれたへよりそう心	15
心豊かな岡山をめざして	17



坪田讓治と孫の眞紀さん
(東久留米市の讓治書齋にて
1963年頃)



.. オレは、くだものが大好きな、からすのゴンベエ。カ。

岡山で生まれ育った坪田讓治さんも、くだものが好きなんだよ！

オレは柿の実をさがしているんなところを飛び回ってるから、讓治さんのことなら、なんでも知っているぜ！



.. ぼくは、ケイちゃん。讓治さんが書いてくれたお話のなかで、ぼくは、柿の木にのぼれるようになったんだよ！



.. ケイちゃん、一人で留守番してて、さみしかったけど、がんばったんだよね。讓治さんがケイちゃんの気持ちによりそってくれたおかげだね。この冊子では、讓治さんの大切にしたいへよりそう心を紹介するから、ケイちゃんも勇気がでるよ！



.. そうだね。ぼくよりももっとさみしい思いをしている人によりそっていける勇気をだしたいな！



ケイちゃん
(「ケイちゃんとかきのたね」より)



ゴンベエ
(「馬太郎とゴンベエ」より)

三人の子どもがよせた譲治への声援

— 生活が苦しくなりはじめる1933年当時をふりかえった文章より —

まさお

正男
(当時 17 歳)



米屋に借金したり、学校の月謝^{げっしや}をためたりしたのは、この頃^{ころ}のことでした。当時の父は、友人の間では、貧乏^{びんぼう}随筆^{ずいひつ}の大家^{たいか}ということになっておりました。

まず貧しくはありましたが、一家が一番^{だんげつ}団結して生活を守り、何とかして父を文壇^{ぶんだん}に出したいという気持ちが母をはじめ私共^{わたくしも}子供達^{こども}にもあったようです。父の作品を読んで家中で面白いとか、面白くないとかと勝手な批評^{ひひよう}を試みたりしました。今思うと貧しいながら毎晩^{まいばん}の食卓は楽しいものでありました。

よしお

善男
(当時 13 歳)



父が、「風の中の子供」を書くまでの4年間が、わが家の貧乏時代であり、父が、「我^{われ}は窮鼠^{きゆうそ} 文学^{ねこ}の猫^かを噛まん」などという言葉を書いていた頃でした。

りきお

理基男
(当時 10 歳)



つぼたじょうじ しょうかい
坪田譲治 紹介

(1890 - 1982)



ぼくのお話を書いてくれた坪田譲治さんだ！ ぼくと同じ岡山の島田の村で育ったんだ。



わたしは作家として認められるまで長くかかったから、苦労したね。
収入^{しゅうにゅう}を得ていた岡山の家業・島田製織所^{せいしよくじょ} から追い出されて仕事を失ったとき、子どもが三人いて、生活は苦しかったんだ。

45歳^{さい} になって、小説「お化けの世界」(『改造』1935年) で注目され、仕事を失ってから4年して、ようやく「風の中の子供^{こども}」が広く読まれた。代表作「子供の四季^{たんじょう}」も誕生して、世に認められたんだ。

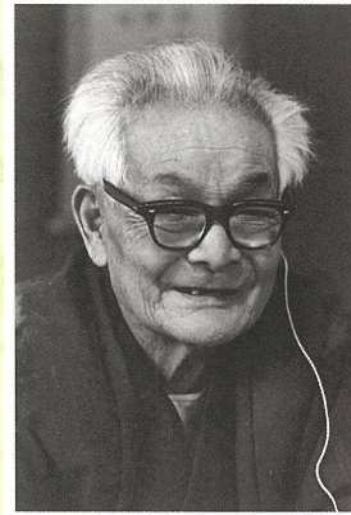
このころ、子どもたちを食べさせられるようになってホッとしたなあ。

だから、苦しいときに〈よりそう心〉をそそいでくれた家族や友人、そして地域^{ちいき}の人たちには感謝^{かんしゃ}の気持ちでいっぱいなんだよ。

それで、譲治さんは、その感謝の心から、〈よりそう心〉を大切にしたんだね！ カ〜ん動するね！ 三人の子どもたちは、どんな気持ちだったかな？



つぽたじょうじ 坪田譲治のことば



つぽたじょうじ
80代の坪田譲治
(1975年頃)

あわれ、幼きものよ、君たちの幼き日に人生の
真の幸福を覚えよ。

「童心馬鹿」より『班馬鳴く』 一九三六年

ほか
他の何を^{せつ}節しても、^{こども}子供のためにとばかり考
えた。一つには、子供にだけは^{ひんこん}貧困を味わせ
たくないと思ったからである。
「親父ごころ」より『班馬鳴く』

子どもたちのしあわせ
を、本当にねがってい
たんだね。



じょうじ
譲治さんは、遠くはなれた東京
から、ふるさと岡山の人たちの
しあわせを、神さまに^{いの}祈ってい
たんだ。

「神さま、どうか、岡山の母を^ああわせにしてやってくだ
さい。それから、兄も、兄の一家も、^{わたし}しあわせにしてやって
ください。それから、私の故郷の村の人たち、^{こゝろ}中でも私の
友だちを、^ああわせにしてやってください。」
「二日一分」より (『びわの美学校』一九六四年九月)

童話「ビワの実」

ビワ

童話「ビワの実」

（『赤い鳥』一九三五年十一月）

甘くて、酸っぱくて、そしていい匂がして、
ちようどそれはビワの実のような味でした。
それを金十はゴクリゴクリと飲みほしまし
た。そしてまたその実を口に持って行くと、
やはり歯形を立てるか立てないかに、もう口
の内がおいしい汁で一杯になりました。一杯
になった上、早く飲まないと、胸の方へ流れ
落ちそうになりました。金十は息をする間も
なく、それを何度飲みほしたことでしよう。

ぼく、ビワの木も、島田の村で
よく見たよ。
今度は、ビワの木に登りたいな！



譲治さんのくだものへ思いは、ふるさと
岡山への思いと家族へのあったかい思い
に重なるよ！ 次のページを見て！

童話「ケイちゃんとかきのたね」



ぼくのお話のあらすじだよ！

ケイちゃんは、お父さんとお母さんが工場の仕事から帰ってくるまで、ひとりでかきのたねで遊んで待っていました。

そんなケイちゃんは、お父さんとお母さんが工場から帰ってくるのがよく見えるように、家の前の柿の木にのぼれるようになります。

木のぼりができる友だちに、のぼり方を教えてもらいながら、毎日毎日練習しました。やっと、柿の木にのぼれるようになったケイちゃんは、柿の木のうでながめて、お父さんとお母さんが帰ってくるのを待つようになりました。

（『ねずみのいびき』収録 1972年 講談社）

ぼくは、学校から帰っても、お父さんとお母さんが仕事から帰ってくるまでは、ひとりぼっちでさみしかったんだ。
みんなのおかげで、柿の木のうでの気分は最高だよ！



岡山のくだものと〈よりそう心〉

随筆「くだもの王国」(「食生活」一九六八年九月)

岡山は一時、くだもの王国なんていわれました。私も毎年岡山の桃をとりよせて、友だちや親類に配ります。やっぱり白桃ということになると、味と香りともに他国でこれに匹敵する桃はありません。

もも 童話「桃の実」(「少国民世界」一九三六年九月)

戦地の息子を想う心

むすこにあいたく、むすこの顔が見たく、その話がききたく、その笑いごえが耳にたくて、ならないのでした。今もこの美しい桃を見ると、フツとむすこのすがたが目には浮びました。それもむすこが死んでるようには思えなくて、生きてるすがたばかりが目には浮びます。

譲治さんのむすこも、三人とも、戦争に行ったから、譲治さんは、むすこたちの帰りを待っていたんだよね！
この作品と同じ気持ちだったろうね。



かき 童話「三本の柿の木」(「桃の実」一九四七年)

二世代の心のきずな

秋になれば、柿の木にそれこそ柿の実が枝が折れそうになるほどなるのです。そんな柿の木がぼくの家には三本もあるのです。それがずっと一列に川岸へ並んでおります。一番左がわのがおじいさんの平作柿、その次がお父さんの平太柿、次がぼくの泉吉柿です。

ぶどう 童話「きつねとぶどう」(「フタバ」一九四六年六月)

子ぎつねが亡き母きつねを想う心

「こんなところにぶどうがあったかしら。」
こぎつねはふしぎに思いながら、そのひとつぶをたべました。何とおいしいぶどうでしょう。
「ああおいしい。ああおいしい。」
こぎつねはのどをならして、次から次へとたべました。しかしその時、ふとおかあさんのこえを
「思いました。」
「まっておいで、おいしいものをとってきてあげる。」

しょうじ おがわ みめい 譲治と小川未明とのきずな

(1882-1961)

童話「^{ろうそく}赤い蝋燭と人魚」で有名な小川未明



譲治さんが大学に入学した18歳のとき、小川未明先生はまだ若くて、作家としての収入は少なく、生活は苦しかったみたい。

未明先生の6歳になる長男・哲文くんは、十分な食事がとれないなかで、病気になって亡くなってしまった。譲治さんは、未明先生と一緒に、哲文くんのかなしい死を見とどけたんだよ。

その後、12歳の長女・晴代ちゃんも病気でもった未明先生は、そのかなしみから、子どもの心によりそう作品や弱い立場の人々の心を描く作品を作るようになったんだ。譲治さんは、未明先生のかなしみをうつした小説「コマ」を発表したよ。

正太が亡くなってから五日経った時、小野夫婦は正太の机の中からコマを見つけた。それには麻緒が巻かれていた。二人は、泣いた後ムツリして隠れていた正太自身を見つけたように、可愛さに打たれて涙を流した。

〔「コマ」『文芸日本』一九二五年六月〕

作家たちの〈よりそう心〉



しょうじ 譲治さんの〈よりそう心〉は、おがわ みめい 小川未明先生や宮沢賢治さんにも、そそがれていたよ！



小川未明って、譲治さんの先生なんだ！

小川未明

譲治は、学生時代から未明の創作指導を受けていた

未明は、^{まず}貧しさのなかで栄養不良となった子どもを病気で亡くした→譲治は未明先生によりそい、その体験を小説「コマ」に書いた

坪田譲治

譲治は、賢治のはじめの童話集を刊行し、子どもたちに広めた

賢治は、貧しい農民とともに働き、〈よりそう心〉で幸福を祈った→譲治は、賢治の詩「雨二モマケズ」を童話集のさいしょにのせた

宮沢賢治

冒頭に掲載された賢治の詩「〔雨ニモマケズ〕」後半

野原ノ松(まつ)ノ林ノ蔭(かげ)ノ
小サナ萱(かや)ブキノ小屋ニキテ
東ニ病氣ノコドモアレバ
行ッテ看病(かんびょう)シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ
行ッテソノ稲(いね)ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナアレバ
行ッテコハガラナクテモイ、トイヒ
北ニケンクワソシヨウガアレバ
ツマラナイカラヤメロトイヒ
ヒドリノトキハナミダヲナガシ
サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボートヨバレ
ホメラレモセズ
クニモサレズ
サウイフモノニ
ワタシハナリタイ



この詩、知ってる！
賢治さんの〈よりそう心〉は、
詩にも童話にもいろいろと表
れているね。

農学校の先生をしていた賢治さん！
教え子や飢饉で苦しむ人の心を思い
やっていたんだね。



童話「或る農学生の日誌」

まず
貧しい農家の青年が、農
学校に通いながら、父と
家の田んぼの稲を育てる
生活を、日誌に書いた作
品。ひどい天候にあっても農業を良くしていこう
とする姿が描かれます。

童話「グスコードリの伝記」

飢饉で家族がばらばらになり、幼
い妹がさらわれ、兄のブドリは、森
をさまよいます。しかし、人々の生
活を改善したいと願ったブドリ
は、科学の勉強をして、大人になり
火山を爆発させて寒い地域を温か
くし、人々を救いました。

じょうじ みやざわけんじ
讓治が宮沢賢治へよせたおもい
(1896-1933)

宮沢賢治著『風の又三郎』(1939年12月 羽田書店)



讓治さんは、「あとがき」で、
「こんなに立派な童話が、
子供の本として出ていない
ということは惜しいことで
あります」と書いているよ。
讓治さんは、宮沢賢治が亡く
なったあと、賢治童話をはじ
めて子ども向けの本として
出版したんだ！

賢治童話を読む子どもたちへ
坪田讓治からのメッセージ

どうか童話をお読みになったら、そ
こから人生のホントウを読みとられて、
人生の貴さというものについて知って
下さい。また正しいこと、正しくないこ
と、美しいこと、醜いこと、そんなこと
についても考えて下さい。

(あとがき「この本を読まれた方々に」)

かさいしんいち ふじいせいいち
笠井信一・藤井静一による日本初の民生委員



笠井信一 (1864-1929)

笠井信一は、岡山県知事になってから、岡山県のなかで生活が苦しい人たちの状況について調べたんだ。こうした人たちが相談できるように、1917年に民生委員のもとになるしくみをつくったんだ。

↑岡山城・廊下門入口の笠井信一像(右下)

藤井静一 (1871-1952)

藤井静一は、岡山市内で困っている人たちの苦しみによりそう活動をしていたんだ。笠井知事はこの活動をヒントとして、民生委員のもとになるしくみをつくり、藤井静一は最初の民生委員(済世顧問)となったよ。



民生委員は岡山からスタートしたんだね！

どうりつ ふくし
創立100年をこえた岡山市社会福祉協議会 (1922年発足)

岡山市社会福祉協議会は、民生委員とともに岡山市内の誰もが安心して暮らせるよう、さまざまな支援を行っているよ！
ささえあう地域づくり、困っている人の相談や支援、人権を守る仕事、災害ボランティア事業など、活動をどんどんひろげてきたんだね！

岡山でもいち早く、〈よりそう心〉を实践した人々がいたんだよ。
次に岡山の歴史に注目してみよう！



岡山でうまれた〈よりそう心〉

いしいじゅうじ こじいん
石井十次による日本初の孤児院・岡山孤児院

石井十次 (1865-1914)

譲治さんの生まれる前の明治時代に、地震や戦争で親を亡くした孤児の教育と救済に力をつくした石井十次。

子どもたちが安心して学べて、働くこともできるようにしていたよ。

「岡山孤児院」をつくって、日本各地の孤児をあつめて、多いときは1200人にもなったんだ！

やまむろくへい どうりつ きゅうせい なべ
山室軍平が創立した日本救世軍の社会鍋

山室軍平 (1872-1940)

現在の岡山県新見市生まれの山室軍平は、石井十次と出会ってから、十次と一緒に子どもたちのために活動してきたんだ。

山室軍平は、「日本救世軍」を創立した人。

街頭に出て、鍋をつるして、道行く人の善意の協力金を呼びかけるというやりかたで、募金活動をはじめたんだ！

○お世話になった方々

坪田 眞紀さん（譲治三男・理基男氏のご子息）
西村 真理さん（譲治次男・善男氏のご息女）
杉山 博昭先生（ノートルダム清心女子大学）
中井 俊雄先生（ノートルダム清心女子大学）

○「ツボジョーワールド探検隊」編集部

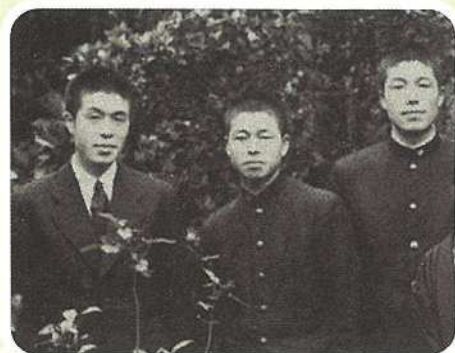
馬越 美佳
藤井 心音
山崎 ふう花
椛島 亜矢
鎌田 栞璃
原野 玲奈
吉岡 寿梨

監修 山根 知子
長原 しのぶ
近藤 友子

（ノートルダム清心女子大学
日本語日本文学科）

写真提供 坪田 理基男さん 坪田 眞紀さん

出典 譲治作品の引用は『坪田譲治全集』（新潮社）による
賢治作品の引用は『宮沢賢治全集』（ちくま文庫）による



坪田譲治の三人の息子
（左から正男・理基男・善男）

金色の美 ～ 譲治と〈よりそう心〉～

発行日 2024年10月1日
発行者 ノートルダム清心女子大学 日本語日本文学科
岡山市北区伊福町 2-16-9
印刷所 （有）ダイニ印刷
《岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進事業」参加プロジェクト》

心豊かな岡山をめざして

～〈文学〉による「ユネスコ創造都市」に 日本で初めて加盟した岡山市から輪を広げて～

岡山市は 2023 年度、〈文学〉の分野で「ユネスコ創造都市ネットワーク」の加盟都市に認定されました。

〈文学〉の力は、人の生き方の根底をつくります。

〈文学〉を読むことと書くことによって、心豊かなまちづくりをめざす岡山市から、〈文学〉の輪を広げましょう。

「ツボジョーワールド探検隊」より

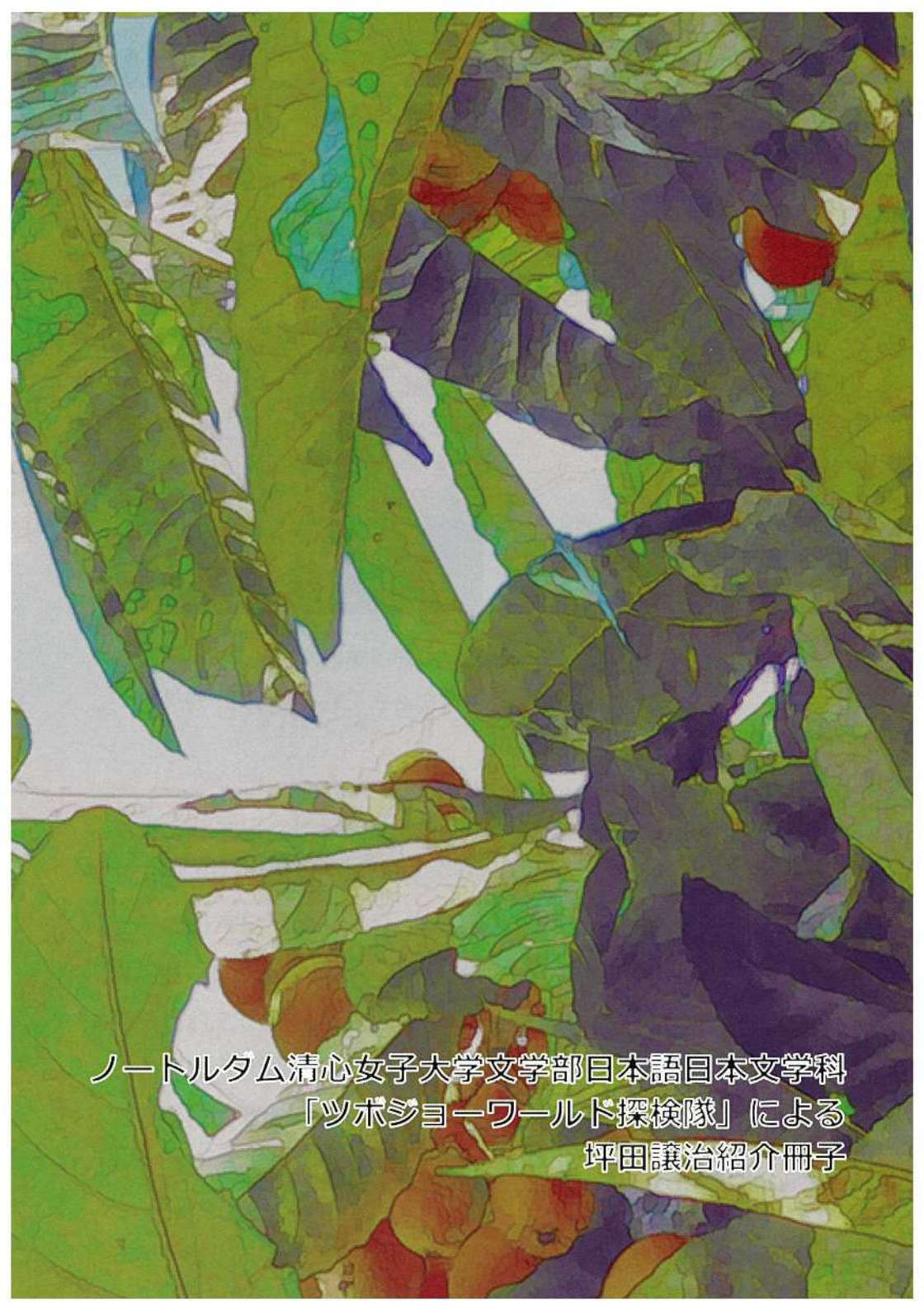
本冊子を手にとっていただき、ありがとうございました。

坪田譲治の〈よりそう心〉とその心から生まれた作品によって、私たちの日常に〈よりそう心〉が広がることを願っています。

譲治さんが育った明治の岡山では、〈よりそう心〉がさまざまにはぐくまれていました。

その思いは、譲治さんの文学から、わきあがっています！

こうした文学から、豊かな心を育てて、あたたかなまちづくりを広げていきたいです！



ノートルダム清心女子大学文学部日本語日本文学科
「ツボジョーワールド探検隊」による
坪田譲治紹介冊子